

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	1070	事業名	水資源対策事業			
所属名	建設局水資源課	評価責任者	水資源課長 東野 健太郎			
		作成責任者	有賀 弓恵	ダイヤルイン	052-954-6118	
政策名	適正な県土利用と水資源の確保		施策名	水資源の確保と渇水への対応力強化		
事業目的	水資源の確保・調整、水源施設整備に伴う水没者等の生活再建を始めとする水源地域振興対策の進捗及び渇水への対応力強化を図る。					
根拠法令・計画等	特定多目的ダム法、水源地域対策特別措置法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	20人(0人)	20人(0人)	20人(0人)	20人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	195,979千円	189,713千円	180,980千円	185,254千円
		事業費(b)	696,170千円	584,383千円	483,905千円	533,180千円
		公債費(c)	172,529千円	171,220千円	172,786千円	172,027千円
		計(a)+(b)+(c)	1,064,678千円	945,316千円	837,671千円	890,461千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		217,575千円	173,565千円	135,557千円	156,382千円	
経費のうち、一般財源等		770,807千円	695,558千円	481,737千円	494,046千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>水資源の確保、水源施設整備に伴う水没者等の生活再建を始めとする水源地域振興対策に関する事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 水資源開発調査費:12,065千円(水資源開発調整費1,269千円) 設楽ダム地域対策費:4,217千円(豊川水系対策事業費2,188千円) 設楽ダム水源地域整備事業費負担金:517,520千円 水源基金推進費:86,527千円(設楽ダム水源地域対策事業費負担金23,860千円) 水力発電施設周辺地域整備事業費:75,841千円(市町村交付金75,279千円) 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	異常渇水により県民の生活・産業活動に重大な被害が発生する日数	最終目標	毎年度0日	
			6年度	0日	0日	(見込)
			5年度	0日	0日	(実績)
		2	水源林対策事業基本計画進捗率(助成額ベース・5年毎・2基金)	最終目標	7年度100%(470百万円)	
			6年度	80%	80%	(見込)
			5年度	60%	60%	(実績)
		3	設楽ダムに係る水源地域整備計画進捗率(事業費ベース)	最終目標	8年度100%(695億円)	
			6年度	77%	77%	(見込)
			5年度	72%	72%	(実績)
	4	電源立地地域対策交付金交付規則に従った交付	最終目標	毎年度100%		
		6年度	100%	100%	(見込)	
		5年度	100%	100%	(実績)	
	5	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
		6年度	-	-	(見込)	
5年度		-	90円	(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:3(理由:設楽ダム関連事業は全体費用の約7割を占め、全体の効果を判断しやすいため) ・全ての指標で目標が達成されたものの、指標の主要なものが、目標を大幅に上回って達成されたためとは認められないため、評価Bと判断した。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、設楽ダム水源地域整備事業費負担金の減少等により、4年度96円に比べ6円減少した。					
課題	設楽ダムの水源地域整備計画の進捗に合わせ、道路等の整備を実施しているが、実施箇所等により単年度当たりの事業費が増減するという課題がある。					
今後の方向性	今後も関係機関と調整を行いながら事業を推進していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4510	事業名	建設総務事業				
所属名	建設局土木部建設総務課	評価責任者	建設総務課長 長野 努				
		作成責任者	長谷 紀周	ダイヤルイン	052-954-6499		
政策名	建設行政の適切な執行と円滑な運営		施策名	建設行政の適切な執行と円滑な運営			
事業目的	建設行政の適切な執行と円滑な運営						
根拠法令・計画等	知事マニフェスト						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	56.90人(0人)	54.90人(0人)	54.90人(0人)	51.90人(0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	3人(0人)	
	経費	人件費(a)	565,354千円	525,813千円	674,430千円	663,522千円	
		事業費(b)	1,163,717千円	1,163,609千円	53,184千円	55,960千円	
		公債費(c)	141,146千円	110,933千円	144,248千円	87,193千円	
		計(a)+(b)+(c)	1,870,217千円	1,800,355千円	871,862千円	806,674千円	
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		37,306千円	37,306千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		1,825,255千円	1,756,144千円	△261,245千円	△43,616千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	建設行政の適切な執行と円滑な運営を行う。 1 市町村土木事業費補助金:1,107,000千円 2 地方関係団体職員共済組合負担金:44,970千円 3 管理事務費:11,747千円						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	市町村土木事業費補助金による市町村道工事済延長	最終目標	-		
				6年度	7km	7km	(見込)
		5年度	7km	8km	(実績)		
		2	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
		5年度	-	102円	(実績)		
		3		最終目標			
				6年度			(見込)
		5年度			(実績)		
	4		最終目標				
			6年度			(見込)	
	5年度			(実績)			
	5		最終目標				
			6年度			(見込)	
5年度			(実績)				
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:管理事業全体の達成度を評価するのに最も適した指標のため。) ・管理事業全体としては、目的が達成された。 ・市町村道工事済延長については、予定どおり工事が実施され、目標を達成した。						
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人当たりのコストは、人件費の増加等に伴い、4年度98円に比べ4円増加した。						
課題	市町村土木補助事業の発注にあたり、労務費単価の上昇や資材価格の高騰といった要因のため、目標達成に影響を及ぼすことが懸念される。						
今後の方向性	コスト削減や事業内容の精査など、引き続き予算の効率的・効率的な執行に努める。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4520	事業名	建設事務所管理運営事業			
所属名	建設局土木部建設総務課	評価責任者	建設総務課長 長野 努			
		作成責任者	庄山 実希	ダイヤルイン	052-954-6497	
政策名	建設行政の適切な執行と円滑な運営		施策名	建設行政の適切な執行と円滑な運営		
事業目的	建設行政の適切な執行と円滑な運営					
根拠法令・計画等	地方財政法8条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	126.50人 (126人)	126.50人 (126人)	126.50人 (126人)	127.50人 (127人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	16人 (16人)	16人 (16人)	16人 (16人)	17人 (17人)
	経費	人件費(a)	1,295,269 千円	1,247,849 千円	1,228,036 千円	1,255,747 千円
		事業費(b)	75,425 千円	44,459 千円	43,317 千円	598,586 千円
		公債費(c)	223,153 千円	206,692 千円	214,139 千円	203,283 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,593,847 千円	1,499,000 千円	1,485,492 千円	2,057,616 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	3,794 千円	3,580 千円
経費のうち、一般財源等		1,593,847 千円	1,499,000 千円	1,337,954 千円	1,523,942 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	建設局内地方機関の運営及び整備を行う。 1 建設事務所管理運営事業費:75,425千円(運営費1,587千円、整備費73,838千円)					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	事務所の庁舎機能維持に必要な修繕、工事を実施する。	最終目標	-	
				6年度	2箇所	2箇所 (見込)
				5年度	1箇所	1箇所 (実績)
		2	県民あたりのコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	185円 (実績)
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B:目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:必要な修繕、工事を目標どおりに実施できたか判断するため。) ・事務所の庁舎機能維持に必要な修繕、工事を目標どおりに実施することができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人当たりのコストは、修繕費が減少したことに伴い、4年度の県民一人当たりのコスト263円に比べ78円減少した。					
課題	建物や設備等の老朽化が進む中、効果的・効率的な維持管理を行う必要がある。					
今後の方向性	コスト削減や事業内容等の精査など予算の効果的・効率的な執行に努め、引き続き、事務所の庁舎機能維持に必要な修繕、工事を実施する。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4530	事業名	建設企画調整事業				
所属名	建設局土木部建設企画課	評価責任者	建設企画課長 高橋 秀直				
		作成責任者	波多野 峻	ダイヤルイン	052-954-6513		
政策名	建設行政の適正な執行と円滑な運営		施策名	建設行政の適正な執行と円滑な運営			
事業目的	建設行政の適正な執行と円滑な運営						
根拠法令・計画等	愛知県入札監視委員会開催要綱、愛知県公共事業評価実施要領、愛知県リサイクル資材評価制度実施要綱、あいちDX推進プラン2025等						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	68.50人 (25人)	68.50人 (25人)	68.50人 (25人)	68.50人 (25人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)	
	経費	人件費(a)	677,629 千円	654,367 千円	640,726 千円	656,069 千円	
		事業費(b)	90,996 千円	75,517 千円	73,571 千円	75,034 千円	
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
		計(a)+(b)+(c)	768,625 千円	729,884 千円	714,297 千円	731,104 千円	
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
	経費のうち、一般財源等		740,509 千円	710,863 千円	692,932 千円	709,082 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>建設局全般に関する政策の調整及び企画調整並びに建設局、都市・交通局及び建築局にまたがる工事検査、技術管理及び事務の電子情報化に関する事業を行う。</p> <p>1 入札契約制度改善費:582千円(入札監視委員会開催582千円)</p> <p>2 事業評価監視委員会費:876千円(事業評価監視委員会開催876千円)</p> <p>3 建設環境事業費:6,944千円(リサイクル推進費3,097千円、一般職非常勤職員報酬等3,635千円、研修費:212千円)</p> <p>4 公共事業支援統合情報システム推進費:26,654千円</p> <p>5 新公会計制度推進費:9,551千円</p> <p>6 土木施設災害対応力向上DX推進費:50,000千円</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	入札監視委員会定例会議の開催回数	最終目標	毎年度継続実施		
				6年度	4回開催	4回開催 (見込)	
				5年度	4回開催	4回開催 (実績)	
		2	事業評価監視委員会の開催回数	最終目標	毎年度継続実施		
				6年度	6回開催	6回開催 (見込)	
				5年度	6回開催	6回開催 (実績)	
		3	県発注の公共工事における主要資材のあいくる材利用率	最終目標	毎年度		
				6年度	80%以上	75% (見込)	
				5年度	80%以上	76% (実績)	
		4	障害により1日以上完全停止した件数	最終目標	毎年度		
				6年度	0件	0件 (見込)	
				5年度	0件	0件 (実績)	
		5	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	-	
5年度	-			177円 (実績)			
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:4(理由:本管理事業の大部分を占める予算額であるため。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の指標で目標が達成されなかったが、管理事業全体では概ね目標が達成された。 建設環境事業においては、県発注の公共工事で使用される主要な建設資材について、あいくる材の積極的な活用により、概ね目標を達成できた。 公共事業支援統合システム推進事業費については、日々の運用状況を確認するなどしてシステムの安全稼働を図ったことにより、障害により1日以上完全停止した件数が0件となり、目標どおり達成した。 						
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、物件費等の増加により、4年度159円に比べて18円増加した。						
課題	制度改正等によるシステム改修について、処理テストを徹底し、稼働の安定性を確保する必要がある。						
今後の方向性	公共事業の適切な執行にあたって、透明性及び効率性、リサイクル資材、評価制度の運営、インフラ資産の適切な把握・職員のコスト意識の向上を図る。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4550	事業名	用地指導事業				
所属名	建設局土木部用地課	評価責任者	用地課長 肥田 幸治				
		作成責任者	中田 景	ダイヤルイン	052-954-6510		
政策名	建設行政の適正な執行と円滑な運営		施策名	建設行政の適正な執行と円滑な運営			
事業目的	適正且つ円滑な公共用地の取得・処分等を通じて、県民が求める県土の発展に必要な社会資本の充実に寄与する。						
根拠法令・計画等	土地収用法 愛知県公共事業の施行に伴う損失補償基準等 国有財産法 愛知県公有財産規則 所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	16.10人 (0.90人)	16.10人 (0.90人)	16.10人 (0.90人)	16.10人 (0.90人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	5人 (1人)	5人 (1人)	5人 (1人)	4人 (1人)	
	経費	人件費(a)	175,140 千円	167,725 千円	152,358 千円	154,119 千円	
		事業費(b)	3,625 千円	3,864 千円	3,188 千円	2,116 千円	
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
		計(a)+(b)+(c)	178,765 千円	171,589 千円	155,546 千円	156,234 千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		7,827 千円	7,827 千円	40,705 千円	40,978 千円		
経費のうち、一般財源等		170,938 千円	163,762 千円	111,290 千円	107,586 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>公共用地の取得やこれに伴う損失補償、土地収用法に基づく事業認定及び行政代執行等に関する事務 国土交通省所管の法定外公共用財産や建設局所管の廃川廃道敷地の管理処分等の事務 所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法に基づく裁定事務</p> <p>1 国有財産・廃川廃道敷地事務処理費:3,179千円(非常勤職員旅費684千円、測量等費用2,495千円) 2 事業認定審議会費:313千円(審議会開催費用313千円) 3 所有者不明土地利用円滑化推進事業費:133千円(裁定等費用133千円)</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	廃川廃道敷地処理5カ年計画の推進(処理面積)	最終目標	500㎡		
				6年度	100㎡	100㎡	(見込)
				5年度	100㎡	1,624.62㎡	(実績)
		2	事業認定審議会等の開催回数	最終目標	1回		
				6年度	1回	1回	(見込)
				5年度	1回	0回	(実績)
		3	行政代執行の実施	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
				5年度	-	-	(実績)
		4	県民一人あたりのコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
				5年度	-	20円	(実績)
		5		最終目標	-		
				6年度			(見込)
5年度					(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:本管理事業の事業費の大部分を占めるため) ・主要な指標について目標値を大幅に上回り、管理事業全体としては事業の進捗を図ることができた。 ・廃川廃道敷地の処理面積は、目標値の120%以上を達成した。</p>						
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人あたりのコストは、4年度21円に比べ1円減少した。						
課題	廃川廃道敷地は地形狭長で単独利用が困難なため、処分が困難である土地が多い。						
今後の方向性	利活用の見込みのない県有財産のうち、一般利用が見込まれる土地について、一般競争入札等を実施して積極的に処分を図る。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4580	事業名	河川事業				
所属名	建設局河川課	評価責任者	河川課長 下市 幸平				
		作成責任者	早川 尚希	ダイヤルイン	052-954-6551		
政策名	被害の半減を目指した地震防災対策の推進		施策名	河川水害の防止			
事業目的	河川の整備及び河川管理施設の維持管理並びに、水防体制の万全を期するための水防に関する事務を行い、県民の生命、財産を水害から守る。						
根拠法令・計画等	河川法、水防法、電波法、地方財政法、公害防止に関する事業に係る財政上の特別措置に関する法律、水源地域対策特別措置法等						
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)			
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	203.30人 (167.10人)	203.40人 (167.10人)	203.40人 (167.10人)	204.80人 (169.50人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	21.40人 (21.40人)	21.40人 (21.40人)	21.40人 (21.40人)	21.40人 (21.40人)	
	経費	人件費(a)	2,128,227 千円	2,051,584 千円	2,021,925 千円	2,078,831 千円	
		事業費(b)	37,995,905 千円	36,091,188 千円	53,513,502 千円	47,695,416 千円	
		公債費(c)	25,410,814 千円	25,560,288 千円	26,657,176 千円	27,695,546 千円	
		計(a)+(b)+(c)	65,534,946 千円	63,703,060 千円	82,192,604 千円	77,469,793 千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		2,960,764 千円	2,400,164 千円	1,380,688 千円	1,035,314 千円		
経費のうち、一般財源等		55,734,287 千円	54,385,395 千円	41,451,347 千円	41,017,913 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>大雨等に伴う洪水等による被害を防止するため、治水施設の管理・保全・整備を行うとともに防災情報の発信を行う。また、親しみやすい河川空間を構築するため水辺の環境整備を行う。</p> <p>1 河川管理費:2,229,783千円(河川維持管理費778,401千円、河川整備計画調査費52,416千円、緊急河川浸透推進事業費1,171,824千円、水防費8,495千円、量水費188,734千円、水防警報施設整備費1,435千円、矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト推進費28,478千円)</p> <p>2 河川改良費(1)公共事業:18,151,804千円(河川整備交付金事業費14,846,440千円、直轄河川事業負担金3,296,364千円、河川事業指導監督費9,000千円)</p> <p>(2)単県事業:17,550,732千円(緊急防災対策河川事業費10,423,960千円、河川環境対策事業費2,582,492千円、地盤沈下対策河川緊急整備事業費等4,544,280千円)</p> <p>(3)新丸山ダム地域整備事業費負担金:63,586千円</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	河川管理施設緊急修繕率(修繕箇所／要修繕箇所)	最終目標	100%		
				6年度	100%	100%	(見込)
				5年度	100%	100%	(実績)
		2	河川整備率(河川整備延長／要改修河川延長)	最終目標	7年度 18.7%		
				6年度	22.1%	21.9%	(見込)
				5年度	18.2%	20.7%	(実績)
		3	河川堤防耐震化延長(あいち地震対策アクションプランに基づく)	最終目標	6年度 47.6km		
				6年度	1.7km	1.0km	(見込)
				5年度	2.7km	2.0km	(実績)
		4	水閘門排水機場等耐震化率(耐震済箇所数／要耐震化箇所数)	最終目標	7年度 100%		
				6年度	72%	72.4%	(見込)
				5年度	63%	62.1%	(実績)
		5	資産当たりコスト(経常費用／事業用資産・インフラ資産)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
5年度	-			5.7%	(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:2 (理由:管理事業を構成する事務事業全般を概ね網羅しているため) ・河川整備率が目標を上回って達成したため、管理事業全体としては事業の進捗が図られた。						
コスト指標の増減分析	・5年度の資産当たりのコストは、経常経費が増加したこと等により4年度5.4%に比べ0.3%増加した。						
課題	・人件費や資材単価の急激な上昇等が、河川事業の実施に影響を与える可能性がある。						
今後の方向性	・コスト削減を図るなど効率的、効果的に事業を実施する。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4590	事業名	海岸事業				
所属名	建設局河川課	評価責任者	河川課長 下市 幸平				
		作成責任者	早川 尚希	ダイヤルイン	052-954-6551		
政策名	被害の半減をめざした地震防災対策の推進		施策名	高潮、津波等による被害の防止			
事業目的	海岸保全施設の維持管理を行い県民の生命、財産を高潮・波浪等の被害から守る。						
根拠法令・計画等	海岸法						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	19.50人(16.20人)	19.50人(16.20人)	19.50人(16.20人)	19.90人(16.60人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	0.10人(0.10人)	0.10人(0.10人)	0.10人(0.10人)	0.10人(0.10人)	
	経費	人件費(a)	203,616千円	196,745千円	195,328千円	203,465千円	
		事業費(b)	3,303,749千円	3,215,850千円	3,414,761千円	4,795,168千円	
		公債費(c)	1,539,685千円	1,731,700千円	1,860,298千円	1,806,844千円	
		計(a)+(b)+(c)	5,047,050千円	5,144,295千円	5,470,387千円	6,805,477千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		3,400千円	3,400千円	4,061千円	4,091千円		
経費のうち、一般財源等		3,755,110千円	3,852,355千円	2,585,120千円	2,179,853千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>高潮、津波等による被害から海岸を防護するために海岸保全施設の機能強化、海岸環境の整備を行うとともに、海岸施設の維持管理を行う。</p> <p>1 公共事業:2,606,778千円(海岸高潮対策事業費1,281,824千円, 海岸浸食対策事業費14,000千円, 津波対策海岸特別緊急事業費1,310,954千円)</p> <p>2 単県事業:696,971千円(海岸緊急整備事業費602,560千円, 海岸維持管理費94,411千円)</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	海岸保全施設機能維持率(実施海岸管理延長／海岸管理延長)	最終目標		100%	
			6年度	100%	100%	(見込)	
			5年度	100%	100%	(実績)	
		2	海岸堤防嵩上げ延長(対策済延長／要嵩上げ対策延長)	最終目標		14.0km	
				6年度	14.0km	14.0km	(見込)
				5年度	14.0km	13.7km	(実績)
		3	海岸堤防耐震化延長(あいち地震対策アクションプランに基づく)	最終目標		20.7km	
				6年度	1.0km	0.8km	(見込)
				5年度	1.0km	0.5km	(実績)
	4	水門等耐震化率(耐震済箇所数／要耐震化箇所数)	最終目標		100%		
			6年度	70%	50%	(見込)	
			5年度	65%	45%	(実績)	
	5	資産当たりコスト(経常費用／事業用資産・インフラ資産)	最終目標		-		
			6年度	-	-	(見込)	
5年度			-	7.0%	(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:管理事業を構成する事務事業全般を概ね網羅しているため)</p> <p>・一部の指標で目標が達成されなかったが、海岸堤防嵩上げ延長については目標を概ね達成するなど、管理事業全体としては相当程度事業の進捗が図られた。</p> <p>・海岸堤防耐震化延長については、施工方法の見直しが必要な箇所が複数あったため、目標を下回っているが、耐震化を進める上で、施工方法が特殊な箇所の対策工事を進めることができた。</p>						
コスト指標の増減分析	・5年度の資産当たりコストは、事業の進捗等により4年度7.2%に比べ0.2%減少した。						
課題	・人件費や資材価格の急激な上昇等が、海岸事業の実施に影響を与える可能性がある。						
今後の方向性	・コスト削減を図るなど効率的、効果的に事業を実施する。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4600	事業名	砂防事業				
所属名	建設局砂防課	評価責任者	砂防課長 舟橋 倫史				
		作成責任者	兵道 俊之	ダイヤルイン	052-954-6558		
政策名	被害の半減をめざした地震防災対策の推進		施策名	土砂災害の防止			
事業目的	土砂災害防止施設の整備及び維持管理を行い県民の生命、財産を土砂災害から守る。						
根拠法令・計画等	砂防法、地すべり等防止法、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律、砂利採取法、採石法、土砂災害防止法等						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	91.10人 (70.30人)	91.10人 (70.30人)	91.10人 (70.30人)	91.60人 (70.80人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	33.40人 (32.40人)	33.40人 (32.40人)	33.40人 (32.40人)	32.40人 (32.40人)	
	経費	人件費(a)	1,027,480千円	989,828千円	974,819千円	999,216千円	
		事業費(b)	6,682,142千円	6,488,345千円	8,656,047千円	7,798,409千円	
		公債費(c)	3,442,658千円	3,654,715千円	3,835,101千円	4,134,734千円	
		計(a)+(b)+(c)	11,152,280千円	11,132,888千円	13,465,967千円	12,932,359千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		197,463千円	179,363千円	170,983千円	166,322千円		
経費のうち、一般財源等		9,233,035千円	9,220,933千円	6,434,100千円	6,607,899千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>大雨等による土砂災害の被害を防止するため、土砂災害防止施設の保全・整備に関する事業を行うとともに防災情報の発信を行う。</p> <p>1 砂防管理費:80,910千円(砂防維持管理費45,076千円、総合土砂災害対策事業費35,834千円)</p> <p>2 砂防事業費:6,601,232千円</p> <p>(1)公共事業(砂防整備交付金事業費3,827,886千円、緊急砂防事業費30,000千円 直轄砂防事業負担金53,790千円)</p> <p>(2)単独事業(砂防河川改修費496,516千円、緊急防災砂防費432,560千円、 砂防災害関連費27,000千円、急傾斜地崩壊対策事業費346,692千円、 緊急防災対策砂防事業費850,184千円、緊急急傾斜地崩壊対策事業費536,604千円)</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	砂防指定地、砂利・岩石採取場等の適正な監視(許認可件数)	最終目標	毎年度 580件		
				6年度	580件	580件	(見込)
				5年度	580件	509件	(実績)
		2	土砂災害防止施設整備率(対策済箇所／要対策箇所)	最終目標	7年度 23.0%		
				6年度	22.3%	22.3%	(見込)
				5年度	22.1%	22.2%	(実績)
		3	土砂災害警戒区域等の指定箇所数	最終目標	7年度 約23,000箇所(累計)		
				6年度	1,000箇所	1,000箇所	(見込)
				5年度	1,000箇所	1,005箇所	(実績)
		4	資産当たりコスト(経常費用／事業用資産・インフラ資産)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
				5年度	-	5.0%	(実績)
		5		最終目標			
				6年度			(見込)
5年度					(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:管理事業を構成する事務事業全般を代表するものであるため。)</p> <p>・一部の指標において目標が達成されなかったため管理事業全体としてはC評価とした。</p> <p>・砂防指定地、砂利・採石採取場等の適正な監視については許認可件数が目標値を下回り、目標を達成しなかった。</p> <p>・土砂災害防止施設整備率については、着実に施設整備を進め、目標を上回った。</p> <p>・土砂災害警戒区域の指定箇所数については目標を達成した。</p>						
コスト指標の増減分析	5年度の資産当たりコストは、経常費用の増加により、4年度の4.6%に比べ0.4ポイント増加した。						
課題	土砂災害警戒区域等の指定を円滑に進めるため、個々の住民に応じた説明が可能となるオープンハウス方式の説明会を今後も開催する必要がある。						
今後の方向性	土砂災害警戒区域等の指定を円滑に進めるため、個々の住民に応じた説明が可能となるオープンハウス方式の説明会を継続していく。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4640	事業名	上下水道事業			
所属名	建設局上下水道課	評価責任者	上下水道課長 藤村 尚治			
		作成責任者	玉水 聖也	ダイヤルイン	052-954-6529	
政策名	快適な都市基盤整備の実現		施策名	生活排水及び事業者排水の浄化		
事業目的	生活排水等の下水を適正に処理し、下水道施設(管きょ・処理場)の整備を行い、水環境の保全に努める。また、水道事業者等に対する指導・監督及び水道施設整備助成を行う。					
根拠法令・計画等	下水道法第25条の22 水道法					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	20.60人(7.70人)	11.40人(7.70人)	11.40人(7.70人)	11.40人(7.70人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	208,310千円	108,213千円	108,386千円	112,296千円
		事業費(b)	1,423,588千円	25,817千円	18,624千円	63,276千円
		公債費(c)	303,166千円	427,314千円	427,725千円	260,806千円
		計(a)+(b)+(c)	1,935,064千円	561,344千円	554,735千円	436,379千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		594,915千円	538,678千円	529,835千円	387,034千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>下水道の整備促進を図り、もって都市の健全な発展及び公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質保全に資するため、各種調査や市町村への助成を行う。また、水道事業者等に対する指導・監督及び水道施設整備助成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 水道施設衛生指導費:10,638千円 2 指導監督事務費:708千円 3 下水道計画基礎調査費:2,645千円 4 下水道事業指導監督費:8,578千円 5 上下水道広域連携検討調査費:54,749千円 6 生活基盤施設耐震化等補助金:1,285,429千円 7 市町村下水道事業費補助金:13,580千円 8 離島地区水道施設整備費補助金:7,861千円 9 三河山間地域簡易水道施設整備費補助金:39,400千円 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	全県の下水道普及率	最終目標		85%
				6年度	83%	83% (見込)
				5年度	83%	81.5% (実績)
		2	下水道計画基礎調査箇所数	最終目標		—
				6年度	1箇所	1箇所 (見込)
				5年度	2箇所	2箇所 (実績)
		3	専用水道施設への立入検査実施率(立入検査実施回数/専用水道数)	最終目標		100%
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	—	— (実績)
		4	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標		—
				6年度	—	— (見込)
				5年度	—	20円 (実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度		(実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(下水道普及率向上が水環境の保全に直接関連するため) ・管理事業全体としては、概ね目標に近い実績であった。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、計画基礎調査の進捗により、事業費が減少したことを受けて、4年度の27円に比べ7円減少した。					
課題	施設の老朽化、資材単価の急激な上昇等により、下水道事業全体においてコストアップが課題となっている。また、水道事業者等について、自主衛生管理の推進による衛生水準の向上を図ることが課題である。					
今後の方向性	市町村と共同し事業推進を効率的に行うことにより、引き続き下水道普及率向上及び水質基準の維持を目指して事業を実施する。また、水道事業者等への指導・監督を継続的に行うとともに、施設の自主衛生管理を推進していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4641	事業名	流域下水道事業			
所属名	建設局上下水道課	評価責任者	上下水道課長 藤村 尚治			
		作成責任者	玉水 聖也	ダイヤルイン	052-654-6529	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	予算編成・執行管理を通じた健全な財政運営の確保		
事業目的	流域下水道事業会計の企業債に係る元金及び支払利息及び建設改良に要する経費等の一部を一般会計において負担する。					
根拠法令・計画等	地方公営企業法第17条の2					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	98千円	95千円	88千円	91千円
		事業費(b)	5,082,378千円	6,662,353千円	6,733,770千円	6,733,704千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	5,082,476千円	6,662,448千円	6,733,858千円	6,733,795千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
経費のうち、一般財源等		5,057,872千円	6,637,311千円	6,708,721千円	6,726,530千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	流域下水道事業会計の経費のうち、その性質上当該事業の経営に伴う収入を充てることが適当でない経費等について、一般会計から補助金の支出及び出資をする。 1 補助金:5,082,378千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	全県の下水道普及率	最終目標	85%	
				6年度	83%	83% (見込)
		5年度	83%	81.5% (実績)		
		2	汚水処理原価(汚水1立米の処理に要する費用)	最終目標	—	
				6年度	—	— (見込)
		5年度	—	45.51円 (実績)		
		3	流域関連公共下水道処理区域内人口の1人あたりコスト(PL経常費用／処理区域内全人口)	最終目標	—	
				6年度	—	— (見込)
		5年度	—	11,367円 (実績)		
	4	経常収支比率(経常収益÷経常費用×100)	最終目標	—		
			6年度	—	— (見込)	
	5年度	—	100.2% (実績)			
	5		最終目標	—		
			6年度	—	— (見込)	
5年度	—	— (実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(普及率向上が水環境の保全に直接関連するため) ・適切な事業執行により、管理事業全体としては概ね目標に近い実績を示すことができた。 ・流入水量に応じた必要最低限の予算内で、水質基準を維持することができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の流域関連公共下水道処理区域内人口の1人当たりコストは、処理区域内人口の増加等により、4年度の11,580円に比べ213円減少した。					
課題	施設の老朽化、資材単価の急激な上昇等により、流域下水道事業全体においてのコストアップが課題となっている。					
今後の方向性	・事業進捗の再精査やコスト削減を行うことにより、引き続き普及率の向上及び水質基準の維持を目指して事業を実施する。 ・公営企業である流域下水道事業の効率的な事業運営を図り、健全な経営を行うことを目指していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4642	事業名	下水道科学館管理運営事業			
所属名	建設局上下水道課	評価責任者	上下水道課長 藤村 尚治			
		作成責任者	玉水 聖也	ダイヤルイン	052-954-6529	
政策名	快適な都市基盤整備の実現		施策名	生活排水及び事業者排水の浄化		
事業目的	下水道科学館の適正な維持管理と効率的な運営を図る。					
根拠法令・計画等	愛知県流域下水道事業の設置等に関する条例第7条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.30人(1人)	1.30人(1人)	1.30人(1人)	1.30人(1人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	12,837千円	12,402千円	12,786千円	12,605千円
		事業費(b)	90,842千円	91,043千円	87,624千円	88,397千円
		公債費(c)	98,540千円	98,251千円	98,271千円	98,269千円
		計(a)+(b)+(c)	202,219千円	201,696千円	198,681千円	199,271千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		190,019千円	189,496千円	179,825千円	179,602千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	下水道の普及啓発を目的として、「みて・ふれて・たしかめて」をキーワードに下水道の働きを楽しく学べる施設運営を行う。 1 管理運営費:70,024千円 2 施設設備整備費:20,818千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	下水道科学館入館者数	最終目標	90,000人	
				6年度	90,000人	90,000人 (見込)
				5年度	90,000人	92,426人 (実績)
		2	利用者あたりコスト(管理運営経費／入場者数)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	755円 (実績)
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:1(下水道の普及啓発活動状況の目安となるため) ・令和5年度から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱いが変更されたことにより入場者数の回復が見込まれる中、岡崎市が主催するマンホールサミットにブース出展し体験型の展示を行う等、科学館のPR活動を強化したり、イベントの内容を充実させたことなどにより、目標を上回る入場者数(102.7%)を達成したため。					
コスト指標の増減分析	5年度の利用者当たりのコストは、入館者数が増加したことから、4年度の914円に比べ159円減少した。					
課題	開館から20年以上が経過し、建物施設の維持修繕費の増大が見込まれることが課題となっている。					
今後の方向性	今後も、より多くの県民の方々に下水道が果たす役割の重要性を理解していただくため、施設のPRを行い、入場者数のさらなる増加を目指す。また、展示物及びイベント企画においては、施設利用者のアンケートを参考に内容の充実を図ることで、下水道の働きを楽しく学べる施設を目指す。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	4790	事業名	土木施設災害復旧事業			
所属名	建設局砂防課	評価責任者	砂防課長 舟橋 愉史			
		作成責任者	杉坂 順子	ダイヤルイン	052-954-6558	
政策名	被害の半減を目指した地震防災対策の推進		施策名	公共土木施設の災害復旧		
事業目的	異常な天然現象により被災した、県管理公共土木施設を早期に復旧することにより民生の安定を図る					
根拠法令・計画等	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	2.50人(0人)	2.50人(0人)	2.50人(0人)	2.50人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	24,791千円	24,047千円	24,303千円	24,732千円
		事業費(b)	2,837,877千円	1,237,024千円	2,186,975千円	550,920千円
		公債費(c)	175,615千円	163,324千円	164,570千円	202,767千円
		計(a)+(b)+(c)	3,038,283千円	1,424,395千円	2,375,848千円	778,419千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
経費のうち、一般財源等		1,199,761千円	636,591千円	177,853千円	234,912千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>過年発生災害の復旧工事の施行に要する経費及び現年発生災害に対処するための予備的経費</p> <p>1 土木施設災害復旧事業:2,837,877千円</p> <p>(1) 公共事業(過年災害復旧事業費2,007,636千円、現年災害復旧事業費800,000千円、災害復旧事業指導監督費241千円)</p> <p>(2) 単独事業(現年災害復旧事業費30,000千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県民あたりコスト (PL経常経費/本県人口)	最終目標	—	
				6年度	—	(見込)
		2		5年度	—	47円 (実績)
				最終目標		
		3		6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
		5		5年度		(実績)
	最終目標					
	6		6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
	外部要因等	異常な天然現象により被災した県管理公共土木施設の復旧事業のため、事前に事業量を把握できない。				
	目的の達成に関する評価	—:評価なし (判断の理由) ◎主要な指標:1(唯一の指標であるため) 災害復旧のために効率的な事業実施を行った。				
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、経常費用が増加したことにより、4年度4円に比べ43円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	引き続き被災箇所の早期復旧を目指し事業の進捗を図る。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。